



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 25

(2023年3月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

蒸気と器械製糸

繭から糸を引き出すとき、繭を煮ることで糸をほぐれやすくしています。古くは水の入った器を焚火にかけ、そこで繭を煮ながら手回しの道具で糸を巻き取っていました。

19世紀初頭のフランスでは、蒸気の熱で繭を煮る装置が発明されます。これは手元にある蒸気管のコックを開閉することにより湯温を調節できるため、焚火を扱うよりも簡単でした。更に蒸気熱はパイプを使って工場全体に送りやすく、また焚火のような煤も出ないことから斑のない上質な生糸の生産に適しています。

その後、蒸気は熱源としてだけでなく、蒸気機関を介して糸を巻き取る動力として利用されました。これらにより、工女は糸取り作業に専念することができるようになります。

富岡製糸場でも、1872(明治5)年の開業にあたって蒸気で鍋水を温める「フランス式繰糸器」と蒸気機関「ブリュナエンジン」が輸入されたことが知られています。これらは当時の器械製糸の要といえる設備でした。現在の製糸工場は動力こそ電気に置き換わったものの、蒸気熱で繭を煮るアイディアは発明から200年以上経った今も引き継がれています。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー
はこちらから▼

